

◎訓練・研修

(1) 訓練のテーマ・取り組み

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
避難訓練等 ※1	・防災避難訓練 (訓練の意味、必要性、非難の仕方、避難訓練の合図(サイレン、放送)、防災頭巾のかぶり方等)  消火訓練	・火災避難訓練 (サイレン、放送機器の確認、園児絵の注意事項の伝達)	・地震避難訓練 (地震が発生した際の避難の仕方(机の下に潜る、避難時は靴を履きハンカチで鼻や口を覆う)、避難する子に火事との違いを知らせる)	風水害避難訓練 (保護者への連絡と連絡網の確認、避難経路とハザードマップの再確認)	・火災避難訓練 (放送、職員の手指示による非常階段を使用した避難誘導)	・地震避難訓練 (大地震が発生した際の避難の仕方、建物の倒壊の可能性を踏まえた避難経路の確認、保育室での園児の保護者引渡し訓練)
その他 ※2	・防災無線グループ訓練 (防災無線の使い方、グループ間の無線送受信の連絡確認)	・エビペンの使い方実技訓練 (エビペンの保管、緊急時の役割分担の確認、アレルギーの知識の習得、エビペンの使い方等)	・水遊び前のAED救命訓練 (心肺蘇生の方法、AEDの使い方、自分自身の健康管理を考える訓練等)	・不審者侵入訓練 (不審者が施設に侵入した場合の避難の仕方、不審者に見つからないための隠れ方等)		
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
避難訓練等 ※1	・火災避難訓練 (煙が充満している場合の対応確認、職員による周囲の状況把握と避難指示、第二避難所までの避難)  消火訓練	・河川氾濫時の避難訓練 (河川氾濫時の避難経路の確認、保育室での園児の保護者引渡し訓練)	・火災避難訓練 (防災頭巾をかぶっての安全な歩行の仕方、訓練慣れ防止のための工夫の検討等)	・地震避難訓練 (周囲の状況、放送や職員による避難指示、大きな揺れが続いているときの自分の身の守り方)	・火災避難訓練 (周囲の状況、放送や職員による避難指示、避難経路の確保、園児への紙芝居等を使用した避難の方法の説明、約束事の再確認)	・火災避難訓練 (周囲の状況、放送や職員による非常階段を使用した避難誘導、避難時は靴を履きハンカチで鼻や口を覆う)
その他 ※2		・不審者侵入訓練 (不審者が施設に侵入した場合の避難の仕方、不審者に見つからないための隠れ方等)	・119番通報訓練 (119番通報が円滑に行えるよう機器点検と連絡内容、役割分担を確認し、園庭での活動中、園外活動中、プールでの活動中等、場所や場面、職員の配置の状況を変え、実践的な訓練への工夫)	・誤飲事故訓練 (口に入れると咽頭部や気管が詰まる等窒息の可能性のある大きさ、形状の玩具や物を室内に置かないことや手に触れない場所に置くこと等の再確認)		

※1 「避難訓練等」・・・設備運営基準第6条第2項の規定に基づき毎月1回以上実施する避難及び消火に対する訓練 見落とし防止等

※2 「その他」・・・「避難訓練等」以外の119番通報、救急対応(心肺蘇生法、気道内異物除去、AED・エビペン®の使用等)、不審者対応、送迎バスにおける見落とし防止等

(2) 訓練の参加予定者(全員参加を除く。)

訓練内容	参加予定者
地震避難訓練 地震発生時の指示、避難方法、避難経路、避難場の確認、防災頭巾のかぶり方等	
火災避難訓練 火災発生時の避難誘導指示の仕方、避難時の用具の確認、避難場所の確認等	
不審者侵入訓練 不審者が施設に侵入した場合の避難の仕方、不審者に見つからないための隠れ方等	
風水害避難訓練 風水害発生及び避難の際の保護者への連絡と連絡網の確認、避難経路とハザードマップの再確認等	
河川氾濫時の避難 河川氾濫時の避難経路の確認、保育室での園児の保護者引渡し訓練等	
防災無線グループ訓練 防災無線の使い方、グループ間の無線送受信の連絡確認等	
エビペンの使い方実技訓練 エビペンの保管、緊急時の役割分担の確認、アレルギーの知識の習得、エビペンの使い方等	
水遊び前のAED救命訓練 心肺蘇生のやり方、AEDの使い方、自分自身の健康管理を考える訓練等	
119番通報訓練 119番通報が円滑に行えるよう機器点検と連絡内容、役割分担を確認し、園庭での活動中、園外活動中、プールでの活動中等、場所や場面、職員の配置の状況を変え、実践的な訓練への工夫	
誤飲事故研修 口に入れると咽頭部や気管が詰まる等窒息の可能性のある大きさ、形状の玩具や物を室内に置かないことや手に触れない場所に置くこと等の再確認	

(3) 職員への研修・講習（園内実施・外部実施を明記）

4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室</li> <li>食物アレルギー講習</li> <li>乳児保険の留意点研修</li> <li>散歩の安全対策と散歩コースのロールプレイング研修</li> <li>水遊び前の救命救急講習</li> <li>遊具の安全点検の仕方の研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>風水害発生時の避難訓練</li> <li>地震避難訓練</li> <li>子どもの事故と感染症研修</li> <li>エビペンの使い方の実技研修</li> <li>子どもへの指導の仕方・伝え方研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災予防訓練</li> <li>保育園の給食と食育指導研修</li> <li>子どもの運動機能を育てる足と靴の教育実践研修</li> <li>保護者に寄り添う家庭支援研修</li> <li>タイムマネジメント勉強会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策講習</li> <li>嘔吐処理研修</li> <li>火災予防訓練</li> <li>河川氾濫時の避難訓練</li> <li>実践コーチング研修</li> <li>防災マネジメント勉強会</li> </ul>

(4) 行政等が実施する訓練・講習スケジュール ※所属する自治体・関係団体等が実施する各種訓練・講習スケジュールについて参加目途にかかわらずメモする

<ul style="list-style-type: none"> <li>救命救急講習</li> <li>食物アレルギー講習</li> <li>保育所における人権講習</li> <li>保育園を運営する上で不調者を出さない職場づくり研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>午睡時の注意研修</li> <li>水遊びでの事故事例と防止対策研修</li> <li>子どもの虐待防止研修</li> <li>保育所における家庭支援実践研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育所における給食の実践実践研修</li> <li>誤飲事故研修</li> <li>トランシーバー発受信訓練</li> <li>不審者対応防犯訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権擁護推進研修</li> <li>保育・教育の質向上研修</li> <li>保育園でできる虐待予防から見た保護者支援研修</li> <li>重大事故を防ぐ園づくり・事故防止のために保育士に必要な視点研修</li> </ul>
---	---	---	--

◎再発防止策の徹底（ヒヤリ・ハット事例の収集・分析及び対策とその共有の方法等）

<p>・ヒヤリ・ハット：食物アレルギー事例の収集・要因分析（クッキング体験でのアレルギー食材の取り扱いや、小麦粘土などのおもちゃの管理など細心の注意が必要。現在、調理時や配膳時のダブルチェックに加え、食器の色を変えネームプレートと食べられないものを記載するなどの対策を再確認する。また、人手の少ない土曜日に事故が起きるケースもあるため、園児全体のアレルギー情報の共有とルールの徹底を職員間で情報共有）</p> <p>・ヒヤリ・ハット：散歩中のトラブル事例の収集・要因分析（基本的な交通ルールを守っていても、子どもたちは手を振り払って走り出したり、犬などに近づきすぎたりといった予想外の行動を取る可能性がある。散歩のルートは、交通量の少ない時間帯の住宅地や歩行者専用帯がある道を選び、たばこの吸い殻や危険な動植物、落ちやすい側溝などがなく下見する。また、子どもが予想外の行動を取っても対処できるよう散歩を監督する人員を複数確保し目的地からの帰る際も子どもの健康状態と人数を確認し、点呼後に列を離れて置き去りにならないよう全体を見ながら声掛けなどを行うことを職員間で情報共有。）</p>	<p>・ヒヤリ・ハット：水遊び中のトラブル事例の収集・要因分析（子どもは歩行が不安定で転びやすく、顔が水に入っても対処できないまま気管内に水が入り静かに溺れてしまうということを念頭に置いて、監視者と指導者を分けて人員を配置し、監視者は話しかけたり業務を行ったりせず、監視に徹することで子どもたちを守りを守ることを職員間で共有）</p> <p>・ヒヤリ・ハット：午睡中のトラブル事例の収集・要因分析（午睡センサーと保育士のダブルチェックで園児を見守り、体に触れていつもと違う様子があれば職員間で情報共有し保護者へ伝達）</p>	<p>・ヒヤリ・ハット：転落・転倒事例の収集・要因分析（職員は子どもが高揚して激しい動きをしていないか見守り、こまめに声掛けを行い、事故防止のために園舎マップなどを作成し園内の危険な場所や注意すべき箇所を職員間で共有）</p> <p>・ヒヤリ・ハット：ゴミやおもちゃの誤飲事例の収集・要因分析（3歳児の口径は4cm程度でトイレトペーパーの芯を通るものであれば口に入り窒息する恐れがある。また、月齢に合ったサイズのおもちゃを使用しているも、異年齢の子どもたちが一緒に遊ぶ場面になると危険なサイズのものが入る可能性がある。さらに、はがれた絆創膏や外部から持ち込んだビー玉、小石などに注意し、おもちゃは部品が外れない工夫のされたものを使用するなどの対応をする。窒息の事故事例があるおもちゃや道具などは、職員間で情報共有し除去する。</p>	<p>・ヒヤリ・ハット：やけどしそうな事例の収集・要因分析（配膳車でスプーンを運んでいた際、職員が後方確認した一瞬の間に子どもがスプーンの入った鍋に手をかけて大やけどを負ってしまうという事故が発生することやクッキング体験中の油はねに注意が必要。そこで、事故の予防策として、子どもが活動する範囲や時間帯には配膳車を入れないような工夫を行い、もし事故が起きた場合、やけどに至らないよう食事や飲み物は40℃以下に冷ましてから移動するよう職員間で情報共有）</p> <p>・ヒヤリ・ハット：不審な人物の事例の収集・要因分析（散歩中や公園遊びなどの戸外活動中は、子どもたちを狙う不審な人物に注意が必要。子どもたちを恐怖にさらさないように、施設周辺での不審者目撃情報など、近隣住民や自治体とも連携を取り情報収集し職員間で情報共有。散歩中は防犯ブザーを携帯し人通りが少なすぎたり子どもたち全体が視認しづらかったりするルートは避ける。また、子どもたちが不審者に近づかないよう、警視庁が公表している「いかのおすし」の約束などで訓練を定期的に行う</p> <p>・いかの…いかない、のらない（知らない人について行かない、車に乗らない）</p> <p>・お…おおごえをだす（助けてなどの言葉を大声で）</p> <p>・す…すぐにげる（変だと感じたら逃げる）</p> <p>・し…しらせる（先生や保護者に知らせる）</p>
---	--	--	---

◎その他の安全確保に向けた取組（地域住民や地域の関係者と連携した取組、登降園管理システムを活用した安全管理等）

<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校との共同避難訓練及び避難場所までのコース確認</li> <li>登降園管理システムを活用した園児の登降園確認及び登園人数の確認管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園の近隣事業所との共同消防訓練の実施</li> <li>登降園管理システムを活用した保護者への不審者情報のメール配信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防署との共同避難訓練と消火器使用方法講習</li> <li>登降園管理システムを活用した火災発生の際の避難先情報のメール配信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会との火災発生時の共同消防訓練</li> <li>登降園管理システムを活用した感染症発生及び流行の保護者へのメール配信</li> </ul>
--	--	---	---